

先ほども述べましたように、季節内変動の研究を進めていくうえで、ハワイ大学の村上多喜雄先生には研究の姿勢等も含め、多くを学ばせていただきました。

GMS のヒストグラムのデータを編集・解析された村上勝人氏の仕事がなかったら、そして、それを業務化した気象衛星センターの努力がなかったら私の仕事もできませんでした。

GMS の1日間隔の画像からスーパークラスターに対応する対流域を同定したとき、3時間間隔の画像を調べたら、との貴重な示唆をくださった山岬正紀氏、私の研究を終始励ましてくださった、松野太郎先生、住明正氏、大学時代に熱帯気象への道へ導いてくださった新田勲氏、研究面に限らず様々な点でお世話になった、台風研究部はじめ気象研究所のスタッフの方々。

以上の方々にこの場をお借りして深く感謝したいと思います。

最後に、私をそだててくれた両親と、良き伴侶である妻と、この受賞の喜びをともにわかちあいたいと思います。

ありがとうございました。

## 文 献

- Hayashi, Y.-Y. and A. Sumi, 1986: The 30-40 day oscillations simulated in an "aqua planet" model. *J. Meteor. Soc. Japan*, 64, 451-467.
- Madden, R.A. and P.R. Julian, 1972: Description of global scale circulation cells in the tropics with a 40-50 day period. *J. Atmos. Sci.*, 29, 1109-1123.
- Murakami, M., 1983: Analysis of the deep convective activity over the western Pacific and Southeast Asia. Part I: Diurnal variation. *J. Meteor. Soc. Japan*, 61, 60-75.
- Murakami, T., T. Nakazawa and J. He, 1984: On the 40-50 day oscillations during the 1979 Northern Hemisphere summer. Part I: Phase propagation. *J. Meteor. Soc. Japan*, 62, 440-468.
- 村上多喜雄, 1986: モンスーン, 東京堂出版.
- Nakazawa, T., 1986 a: Intraseasonal variations of OLR in the tropics during the FGGE year. *J. Meteor. Soc. Japan*, 64, 17-34.
- Nakazawa, T., 1986 b: Mean features of 30-60 day variations as inferred from 8-year OLR data. *J. Meteor. Soc. Japan*, 64, 777-786.
- Yasunari, T., 1981: Structure of an Indian summer monsoon system with around 40-day period. *J. Meteor. Soc. Japan*, 59, 336-354.

## 第13回極域気水圏シンポジウムのお知らせ

南極域においては、現在第31次観測隊により「南極域における気候変動に関する総合研究 (ACR)」が実施されており、国内においては、当研究所を中心に氷床コアの分析や、衛星データの解析、オゾンホールや氷床変動の研究が続けられております。つきましては極域における気象学、雪氷学、海洋学に関連する研究成果と今後の研究の展望について議論すべく、右記によりシンポジウムを開催致します。ふるって御参加下さい。

### 記

日時: 1990年7月12日(木), 13日(金)

場所: 国立極地研究所, 講堂

発表申込締切: 5月10日

連絡先: 国立極地研究所, 気水圏シンポジウム係

〒173 東京都板橋区加賀 1-9-10

電話 03 (962) 4711

FAX (962) 2529